

企業組合 リンクシップ

企業組合リンクシップは、山形市内の企業に勤務していた仲間が独立して働く場を設けるべく設立され、今年で8年目を迎えます。メンバーの経験や知識・技術を活かした提案型の事業を展開しており、企画から取材・作成まで一貫して行っています。顧客の悩みに寄り添い、ニーズに応じて最適な媒体やツールを提案し、作成できることが強みです。

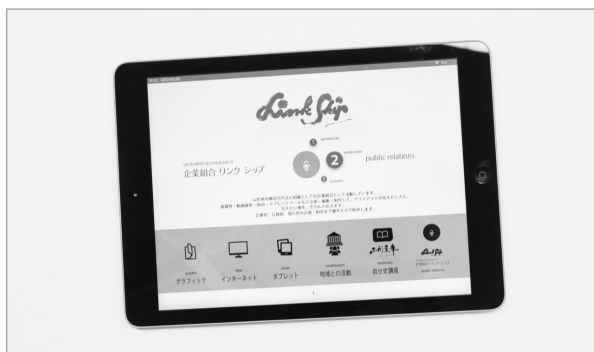
きっかけは、東日本大震災

組合設立を考えるきっかけとなったのは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災でした。当時、渡邊靖理事長は、混乱した人々に溢れかえる山形空港で利用客のために尽力する関係者の姿や、夜の空港で眠る親子の様子を見て、「自分たちに何ができるのか」を考え続けたそうです。そして、伝えることの大切さを改めて痛感し、「大切な人とのつながりや人々の想いを伝え、残していきたい」という思いを実現すべく、同じ志を持つメンバーとともに組合設立を決意しました。

リンクシップは「いま、やらなければならないことがある、やれることがある」という決意からスタートしています。組合名の『リンクシップ』は、つなげるという意味のリンクと接尾辞のシップを組み合わせた造語で、「つなげてゆくこと」という意味と想いが込められています。

「伝える、伝える」最適ツールの提案

組合事業として、昨年度からiPadを活用したSPツールやプレゼン方法の企画提案・作成をスタートしました。こちらは、オウンド（自ら持つ）メディア（媒体）として、自社が持つメディアを全てひとつの媒体に集約し、営業戦略のためのSPツールとして活用するものです。パンフレットやHPだけでは伝えきれないPRポイントをスライド写真・動画を用いて効果的に表現でき、タブレット端末の特性と操作性を活かすことで、情報をより分かりやすく・多角的に見せることができます。社内の共有プレゼンツールとして活用すれば、社員の営業力向上にも役立ちますし、HP等に掲載しづらい技術情報等を必要なときだけ端末上で表示したり、動画をモニターに繋げて流したりと、必要に応じて様々な活用が可能です。たくさんの情報をひとつの媒体に入れて携帯できるので、状況に応じたセールスができます。



【iPadを活用したSPツール】



【自分史とブランドブックは企業の想いを伝えるツールになる】

「山形文庫」で“想い”を“つなげる”

「山形文庫」は自分史を活用した事業として、山形県事業である「やまがた地域産業応援基金」を活用し、6年前にスタートしました。伊藤副理事長は自分史活用マスター、渡邊香専務理事は自分史活用アドバイザーの認定を受けており、講座やセミナーも多数開催しています。自分史作成・活用を希望する顧客に対し様々なサービスを展開しており、一人ひとりの希望に沿った対応が可能です。「自伝作成だけでなく、文集、記念誌、就活、名刺、終活…。自分史は、色々な方にご活用いただけます」と副理事長は話します。

また、自分史活用は、個人だけでなく事業承継にも役立てられます。多いのが社史や記念史作成のため活用するケースで、企業の歴史や創業者の想いをかたちにして残すことができます。

思いが伝わる「ブランドブック」

いま、広報は紙・メディア・WEBなど色々な媒体がありますが、「ツールを単品で活用するのではなく、併せて使うことでそれぞれのメリットを高めあうことができる」と渡邊理事長は話します。今年度、リンクシップが新たな企画として始めたのが「ブランドブック」です。こちらは、「企業の思い（企業史）」「社員の思い（会社案内）」「就職者への思い（入社案内）」の3つの要素を企業冊子としてまとめることで、経営戦略に活用するものです。前述のiPadツールと併せて活用することで、さらにビジネスチャンスが広がります。

「情報の受取側・発信側の両者に変化するなかで、その間にいるメディアは時代と共に変わっていかねばいけません。広報にとって、デジタルメディア・リアルメディアのどちらも欠かせない」「“想い”を残すことが、その人の“誇り”に繋がる。それをつなげていきたい」と、理事長と副理事長は話していました。

組 合 概 要	
所在地	山形市松栄1-3-8 山形県産業創造支援センター205
TEL/FAX	023-646-5222/023-646-5222
主な事業	広告企画・広報 出版物の企画・編集・制作・印刷 等
代表理事	渡邊 靖
設 立	平成24年6月
組合員数	4
ホームページ	linkship.jp/ (山形文庫) yamagatabunko.com/